



講師の今村さん

自分らしい最後を迎えるために
町民大学マイプラン講座

3月9日、計4回にわたって行われた平成26年度町民大学マイプラン講座が最後となりました。講座は終活（人生の終わりのための活動）についていくつか迎える「その時」人生を美しく仕上げることについて、(有)新得はなやの今村文昭さんを講師として迎えて開催されました。

お金とモノ、医療・介護、葬儀・墓、想い・思い出についてを新得町の例も交えて説明され、参加者からは感嘆の声が聞かれました。「これを機会に家族との情報共有をしっかりといただきたいと思います」と今村さんは話していました。



講演する水藤さん

自分たちの地域は自分たちで守る
災害に強いまちづくりに向けた講演会

災害に強いまちづくりに向けた講演会が3月25日、公民館で開催され、約30人が参加しました。「震災を迎え撃つ、災害に強い防災まちづくりを」と題し、防災まちづくり研究所の代表水藤恒彦氏が講演しました。

講演では「災害のように緊急性を要する事態では、公共機関による対応だけでは限界がある。町内会単位などで自主防災組織を作り、日頃から自分たちの地域は自分たちで守る意識が必要。災害発生時に電話が繋がりにくい状況になった場合、局番なしの117をダイヤルすることにより安否確認の伝言を録音できる「声の伝言板サービス」があるので、是非憶えておいて欲しい」と話していました。



料理の楽しさを学ぶ
春休み子ども料理教室

3月31日、保健福祉センターなごみで「春休み子ども料理教室」が行われ、小学4年生～6年生の男女7人が参加しました。料理づくりを通して作ることに食への楽しさや大切さを学ぶことを目的としています。

講師には、町管理栄養士の木下紗恵子さんとしんとく食生活とものか鈴木友枝会長の方々を招き、「ポテトトピヤ」と「こつぶドーナツ」の2品を作りました。

慣れない手つきでの4年生を6年生が手助けする場面も見られ、参加者は「とっても美味しくできた。持って帰ってお母さんに食べさせてあげよう」と満足気でした。



愛の鈴とカードを渡す堂端部長と廣瀬理事長（右から）

新入学生・入園児にプレゼント
商工女性部・スタンプ協同組合

町商工女性部(堂端廣子部長)は3月26日、町内の小学校新1年生と幼稚園、保育所(園)の新入園児に「黄色い愛の鈴」100個を寄贈しました。この活動は部が結成された当初から続けられており、今年で46回目。部員が交通安全の願いを込めて一つ一つ手編みで作成しています。

また、町スタンプ協同組合(廣瀬嗣理事長)は、町内の小学校と中学校に入学する新1年生に「しんとくんカード」(20ポイント付き)95枚を寄贈しました。今年で5年目の活動となります。

自宅にいなながら町議会を視聴可能
町議会をインターネットで生中継配信

町議会議員改選後に行われる町議会から、会議場の様子をインターネットで生中継配信する予定です。

これは町議会が「町民の目にもっと見える、わかりやすく開かれた議会」を目指すために実施するもので、USTREAM(ユーストリーム)社の映像配信サービスを利用して生中継及び録画中継を行います。

視聴方法は、町ホームページの「新得町議会」のページからインターネット中継のページをクリックするだけで見ることが出来ます。

町議会が生中継配信している時は生中継が視聴できますので、再生ボタンを押して映像を見ることが出来ます。

生中継を配信していない時は、録画のみを視聴することが出来ます。

視聴になる際は、ホームページ内の「注意(免責)事項」を必ずご確認ください。

コープさっぽろと協働で森林づくり
カーボン・オフセット活用型森林づくり制度協定調印



写真左から濱崎局長、小林理事

町では、町有林の間伐によって生まれる二酸化炭素(CO2)吸収量を企業に提供し、その対価として企業からの資金を受けて森林整備を進める「カーボン・オフセット活用型森林づくり制度」の協定を生活協同組合コープさっぽろと結びました。

3月2日に十勝総合振興局で行われた調印式では、コープさっぽろの小林雅子帯広地区理事と浜田正利町長が、同振興局の濱崎隆文局長の立ち会いのもと調印しました。この計画ではコープさっぽろが町有林1畝にカラマツ1600本の植樹と植樹後4年間の下草刈りなどの保育活動に約150万円を提供することになっています。

新得のできることを見つけるために
地方創生セミナーしんとく



講演する祁答院さん

3月9日、地方創生セミナーしんとくが「新得だから、できることがきつとある!」をテーマに町公民館で開催されました。

地方創生の成功例である「神山プロジェクト」の仕掛け人である祁答院(けこた)いん弘智さんと「うらほろスタイル」を推進する近江正隆さんを講師として招き、町内外から約70人が参加しました。

祁答院さんは、「創造的過疎」として注目されている徳島県神山町のNPOグリーンバレー理事で、地域滞在型人材研修「神山塾」の企画・運営を担う(株)レイシヨンを代表を務めています。

移住の実例を挙げて「旧住民と新住民の知恵と経験の融合が地域再生を生み出している」と語り、有機生産物に関する移住者が増えていることに対しては、「速回りはしたが、いよいよ本丸の農業による



講演する近江さん

る地域再生へと突入した」と語りました。

近江さんは、新得町農村ホームステイ協議会も加入しているNPO食の絆を育む会の代表を務めています。

都会の高校生を受け入れている事業を挙げ、「子どもたちに食と命の大切さを実感してもらい、農山漁村の大切さを広める繋がりを作りたい」と語り、「うらほろスタイル」では、「地域が持続するためには、子どもたちに地域に対する愛着を持ってもらい住み続けてもらうことが大切であり、大人はその実現のために取り組まなければならない」と語りました。

それぞれの講演の後には、対談も行い、祁答院さんは「地域活性化は暮らしが、居心地の良さが大事」とし、近江さんは「地域の住民が農村の価値と可能性を認識し、発信することが大事」と語りました。